

平成 29 年 9 月 27 日 (水)

APEC WEF 2017 APEC Business Efficiency and Success Target AWARD

開幕式 林 文子 横浜市長スピーチ

- ナタリア・ストリグノヴァ副局長をはじめ皆様、おはようございます。
第二回目となる BEST AWARD の開催、誠におめでとうございます。今年もお招きいただき、大変光栄です。
- このアワードは、参加者の方々の事業の国際化への足掛かりとなり、
起業を志す女性に多くの気づきと勇気を与える、大変意義深いものです。
関係者の皆様に、心から敬意を表します。

- 私も市長就任前には45年間、民間企業で働いてきました。最初の職場では
男性のアシスタントしか任されず、転職を重ね、自動車セールスの仕事に
就きました。
- その支店で女性のセールスは私一人。女性ならではの「共感力」を活かし、
お客様に寄り添い、ニーズを汲み取り、1か月ほどで支店のトップ
セールスを記録しました。
- その後、支店長となってからも、「共感力」、そして「包容力」をもって
部下に接しました。成績が振るわない部下こそ、理解しようと寄り添い、
努力を褒め、励まし続けました。部下も次第に心を開き、支店全体の
成績も向上しました。
- そうした中、ライバル会社から「あなたの力で社員を幸せにしてほしい」
と、社長職へスカウトされ、1999年、フォルクスワーゲンの販売会社の
社長となりました。
- 経営危機にあった全国規模のスーパーマーケットのCEOに、請われて
就任し、再建に取り組みました。しかし、顧客や従業員の8割が女性で
あるにも関わらず、経営陣は私以外皆、男性で、経営と現場の意識の乖離
が大きな課題でした。
- 何度も現場に赴き、多くのお客様や従業員とコミュニケーションを重ね、
女性ならではの感性で感じとったこと、そして生活者としての視点を、
改善に活かしました。

- また、数多くの女性従業員が、育児と就労の両立を断念し、離職する姿を
見て、悔しい思いをしてきました。それが、保育所待機児童対策をはじめ、
現在の市長としての女性支援策の原動力になっています。

- 男性中心の日本社会の中で、数少ない女性のトップマネジメントとして、自分の可能性を試したいと、チャレンジを続けてきました。そして今、最終的に人を動かすのは愛であると、確信しています。
- お集りの皆さんも、ぜひリスクをとってチャレンジしてください。必ず素晴らしい出会いがあり、自分自身の成長があります。女性であることは強みになります。皆さんのチャレンジが、後に続く女性たちが進む道を開きます。

- 横浜市は現在、多岐にわたり女性の活躍を後押ししています。中でも女性による起業の効果に着目し、経営相談や低利融資、シェアオフィスの設置、大規模なプロモーションなど、成長ステージに応じた支援を展開しています。こうした支援を活用し起業した女性は、この6年間で221人に及び、80%を超える事業継続率をあげています。
- 更に、フィリピン、アフリカ各国など、海外の女性起業家との交流も進めており、この分野で日本の他都市をリードしていると自負しています。

- 参加者の皆様にも、このBEST AWARDを契機にネットワークを広げ、事業を発展させていただき、近い将来、ぜひ横浜にビジネス進出していただきたいと願っています。
- 皆さんのグローバルな活躍を、世界中が期待しています。ありがとうございました。